

どうにかで会ったからお声かけてください

えー。とうとうこの「おもろいでっせ!モノづくり」は、最終回を迎えることになりました。

やはり淋しいですなあ。覚悟してましたけど。一三五回も続いたことですし、良しとはしてませんが……。

東日本大震災の後(二〇一三年一月号)から始めたこの連載でしたが、連載中にコロナ禍があったり、あちこちで地震や集中豪雨があったり、そして今年、二〇二四年早々の能登半島地震。自然災害が多いですねえ。わが日本は。

まあ、四方を海に囲まれますから、突然、陸続きの国から攻め込まれる、ということもなく、それは助かっていますが、なんとも自然災害が多い。

それでも災害に対するとっさの対応は、阪神・淡路大震災、そして、東日本大震災のときと比べ、良うなったことは確かでしょう。

例えば「プッシュ型支援」です。これは二〇一六年の熊本地震から実施されたそうです。つまり「国が被災都道府県からの具体的な要請を待たないで、避難所避難者への支援を中心に必要不可欠と見込まれる物資を調達し、被災地に物資を緊急輸送する」ことをプッシュ型支援と呼んでいるそうです。

考えると、これ当たり前のことですね。自治体も被災した当

事者やから、被災状況は、ようつかめないやろうし、離れたところから見た方が、全体がよくわかります。経験から学んだ知恵やと思います。

そやけど、これからですなあ。被災された方が、単に生きていくというだけでなく、生活を再建して、大切な日常を取り戻すのは大変です。

テレビでも言うてましたけど、能登の人たちは、おとなしく迷惑をかけまいと耐える性格の方が多いようです。それストレスが溜まっても、外見では一見わからないようですね。

なにも大阪人みたいに、やいのやいの言わなくてもいいですが、個人でなんでも背負ってしまうのは、心の病気になるてしまふこともあります。氣をつけてください。

これから復興までの道は長いです。身体だけでなく心も大事にしてください。

僕らのような年配層はどう生きていけばいいのか

さて、こんな災害を目のあたりにして考えるのですが、僕らのような年配層は、これから、どう生きていけばいいのか、ということなんです。



◎(株)アオキ取締役会長
青木 豊彦 (あおき・とよひこ)



大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。東大阪の技術力を生かし人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年国立和歌山大学客員教授に就任。2016年大阪市立大学学長特別顧問に就任(現在は、大阪公立大学客員教授)。2020年国立滋賀医科大学学外有識者会議委員に就任。(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事。

Z世代という世代があります。簡単に言うと、年齢的には二〇代半ば以下でインターネットに慣れた世代を指すそうです。この前、その一人の芦屋の高島峻輔市長さんと、ある会合でお会いしました。高島さんは当選当時二六歳で、全国歴代最年少の市長さんです。

普通、自治体の首長さんなんかは、会合に顔出して、すぐお帰りになりますが、高島さんは二次会までお付き合いいただき、じっくりお話しできました。

それで聞いたんです。

「なんで、そんなに若こうして、市長になりたいと思ったんですか?」と。

そしたら高島市長さん、こう言っていました。

「やりがいです。大きな予算を責任もって行使できる。それで市民の皆さんに喜んでもらえたら、うれしいですね」と。

いやあ、こんなこと考えてるのですなあ。今の若者は就職するときに、社会への貢献、というのをポイントにしているそうです。

僕らの頃は、社会全体が若かったということもありましたが、お金が欲しい。女の子にもてたい。好きな仕事、カッコいい仕事をしたい、というのが主流やなかったでしょうか。

もうそんな時代やないんですなあ。

僕を含めて前期・後期高齢者(余談やけどこのネーミング、いかにもお役所がつけたらしい思いやりのない言葉やね)は、まだまだ元気やから、仕事の第一線に立ちたいと思う人が多いでしょうが、いっそ実業の方は若い人に任せて、社会の役に立つことに専念したら、と思います。



これからの人生、花咲かじいさんになろうと思います

いつまでも分別ある大人が、若者に手取り足取りして仕事教えてたら、新しいものは生まれなくてもいいかもしれません。

ジジバカですが、ウチの孫は小学一年生のとき電車通学で、一回乗り換えを間違えて、迷子になったら、しっかりしました。やはり失敗はせなけません。今の社会、失敗を恐れてばかりで守りに走ってませんか?

僕は、前から言うように、これからの人生、花咲かじいさんになろうと思います。

人工衛星「まいど1号」を打ち上げた経験、ものづくり医療コンソーシアムを立ち上げた経験などをみなさんにお話して、モノづくり、地域づくりのヒントにしていただければ、と思います。コロナ禍も終わり、あちこちからまた講演の依頼が入るようになりました。どこかでお会いするかもしれません。

その折は、是非、お声をかけてください。ではまた、お会いしましょう!